

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670103821
法人名	有限会社十匠
事業所名	グループホーム谷山中央
訪問調査日	平成21年1月23日
評価確定日	平成21年3月23日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103821		
法人名	有限会社十匠		
事業所名	グループホーム谷山中央		
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央2丁目609-1 (電話)099-268-1765		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(20年11月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 16.5 人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	9名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 83.4 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	谷山緑地病院、田之畑クリニック、浜田しのぶ歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の利便性が高い住宅街に位置し、敷地内にアパートもあるため災害時の協力体制もできている。また、近隣住民の近道として敷地内を開放しているため、ホームが孤立することなく、地域と融合している。子供たちの通学路としても使われているので、職員からの提案もあり、「子ども110番の家」に申請を検討中である。職員は常に前向きに認知症ケアに取り組んでおり、管理者もまた、職員一人一人の力量、個性を把握して育てていることが伺える。ホームは1階と2階で分かれているが、利用者は自由に行き来しており、職員となじみの関係ができている。開設6年目を迎え、真摯な取り組みで今後更に充実が期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携は生活保護者もあり、状況報告をしている。また、事故報告、相談などもしており、担当職員の訪問もあるなど連携はとれている。同業者との交流は管理者を中心に情報交換などおこなっており、相互見学もある。今後は職員の交流研修も検討中である。災害対策は昼夜想定避難訓練を年に2回消防団の協力のもと実施している。また、隣のアパートの住民の協力ももらえるように話し合っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、管理者、職員で評価に取り組んできた。これからの改善課題、気づきなどができて、今後、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会長、家族代表、県議、近隣のアパート住民、出入りの業者などの参加で定期的開催している。年3回の家族会の際にも運営推進会議を設けており、家族の参加は多数あるが、それ以外の日程になるとなかなか参加が困難なときもある。会議の内容は業務についての質問が多い。今後は幅広い参加者の確保とさまざまな視点からの充実した運営推進会議への取り組みが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会時に意見、要望を引き出したり、無記名によるアンケートを実施するなどしている。出された意見、要望はミーティングで話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、校区運動会や地域の催し物に参加している。また、ホームでの敬老会の案内を地域の方の協力をもらい、対象者を紹介してもらおうなど地域住民の情報も把握するとともに多数の参加者を確保できた。また、ホームの敷地を近隣住民の要望で近道として開放しており、通学路としても使われているので、「子ども110番の家」に申請を検討中である。校区の中学生の職場体験も受け入れており、地域との交流は盛んである。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく生活し、地域との関わりを大切にしたい理念を、開設時に職員全員で話し合っけてつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、台所に掲げてあり、朝の申し送りのあと全員で唱和し、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、校区運動会や地域の催し物に参加している。また、ホームでの敬老会の案内を地域の方と一緒に配り、地域の情報を把握するとともに多数の参加者があった。ホームの敷地を近隣住民の近道になるため開放しており、通学路としても使われているので、「子ども110番の家」に申請を検討中である。校区の中学生の職場体験も受け入れており、地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、管理者、職員で評価に取り組んできた。評価することにより、これからの改善課題や気づきなどが出てきて、今後、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、家族代表、県議員、近隣のアパート住民、出入りの業者などの参加者で定期的に行われている。年3回の家族会の際の家族の参加は確保できるが、それ以外の際の出席が困難なときもある。会議の内容は業務についての質問が多い。		行政の参加がなかなか得られていないのが現状である。また、家族の参加が確保できないときもある。サービス向上のためにも安全の確保のためにも警察をはじめ、行政、家族の参加を今後とも呼びかけるとともに、更に充実した内容の運営会議が行われることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護者の状況報告や運営について相談、助言をもらうなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りと担当者より利用者の状況報告をしている。面会時にも都度日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳で確認してもらい、サインをもらっている。職員異動は面会時に報告。遠方の家族にはホーム便りの中で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時に意見をきいたり、無記名によるアンケートを行っている。病院受診の相談があり、できる限り家族の要望にこたえられるようにしている。他にも、出された意見、要望はミーティングで対応を話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係を重要視したケアを心がけており、法人内の異動は最小限に抑えられるように努めている。離職を抑えるためにも非常勤職員の労働条件の見直しの工夫もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より指導者を招いての研修、講演会やミーティングでの勉強会を行っている。外部研修は職員が交代で参加し、研修報告をし、全職員が知識を共有している。資格取得の職員の支援もしている。平成21年度の年間計画を作成中である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会、情報交換などで交流や相互訪問を行っている。職員の交流研修も計画之中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際は自宅訪問し、本人、家族と面会し、状況を把握するようにしている。すでに入居している利用者とのなじみの関係が作れるように、昼食までの体験入所をもらってからお互いに不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と寄り添い、人生の先輩としてふれあうことを大切に、昔の行事や風習などを教えてもらいながら、利用者から励まされたり、感謝されるなど学び、支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の個性を見極め職員間で情報を共有し、障害を個性として捉え普通に暮らせることを職員一同目標にしている。利用者の何気ないことばも傾聴し、常に意識して思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員、担当者、必要時主治医の意見ももらい、集約し、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと状態変化時の見直しを行っている。家族来訪時に担当者会議を行い、見直しの時期にも話し合いを設けている。入退院後の見直しもやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、自宅訪問、特別な外出の支援など状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については家族の意見を聞き要望に沿うよう職員間でも話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。記録物の取り扱いにも注意をはらい、職員採用時の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態や思いに配慮しながら利用者のペースで生活できるように支援している。朝、早く起きる利用者には朝食を早くだすなど配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに献立を考えたり、下ごしらえ、調理、配膳、下膳、食器洗いなどできることを手伝ってもらい、和やかな雰囲気の中で食事をたのしんでいる。また、糖尿病の利用者へも工夫して楽しみのある食への支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてはあるが個々の体調と希望に合わせて柔軟に支援している。時には職員も一緒に入浴するなどともに楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌やゲームを楽しんだり、利用者が通いなれた地域のスーパーやディスカウントショップへの買い物、また、散歩の途中にある足湯、誕生日に外食に行くなど気晴らしの支援をしている。なじみの理美容院の利用、宗教の場への外出など支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、外気浴、食材の買い物に出かけている。また、ドライブをかねて、ショッピングセンター、ファミリーレストランなどにもでかけている。初詣、厄除け祈願、花見、ソーメン流しなどホームに閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら安全確認に努め自由な暮らしができるようにしている。外出傾向のある利用者にもサインを見落とさないように職員は常に見守りをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼夜想定避難訓練を消防署の協力のもと行っている。近隣住民の協力関係もできている。災害時の備蓄も有る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、栄養摂取量は記録により一人一人の状態の把握に努めている。また、身体状況に応じて食事形態を考慮している。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、温度調節や換気、掃除など行き届いている。広いリビングには食卓と、座り心地のいいソファがある。浴室やトイレ、また台所も出入りしやすい作りになっており、身体機能を活かし、自立した生活が送れるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、使い慣れたタンス、こだわりのある引き出し収納、ちゃぶ台、ソファ、仏壇、神棚、寝具、パイプハンガーなど利用者は使い慣れた家具や好みのものを持って来て安心して生活を楽しんでいる。希望があれば畳敷きも可能である。		